

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~3日	11月 ~10日	11月 ~17日	11月 ~24日	12月 ~1日	12月 ~8日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	107	157	62	14	11	15	9	19 (23)	26
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	37	85	46	13	7	10	11	3	11
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	12	18	9	4	3	2	4	6 (7)	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	17	15	8	2	2	4	2	5 (7)	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	12	15	10	4	2	1	3	1	3
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	2	4	1	0	0	1	0	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	0	1	3	2	0	1

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第49週(12月2日~12月8日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7		1			3		3
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	1	つつが虫病	1					1		
五類全数	11	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1		
		劇症型溶結性レンサ球菌感染症	2				2			
		後天性免疫不全症候群	1							1
		百日咳	7		4			3		

注) 西部…大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市 西部東…竹原市, 東広島市, 大崎上島町
東部…三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町 北部…三次市, 庄原市

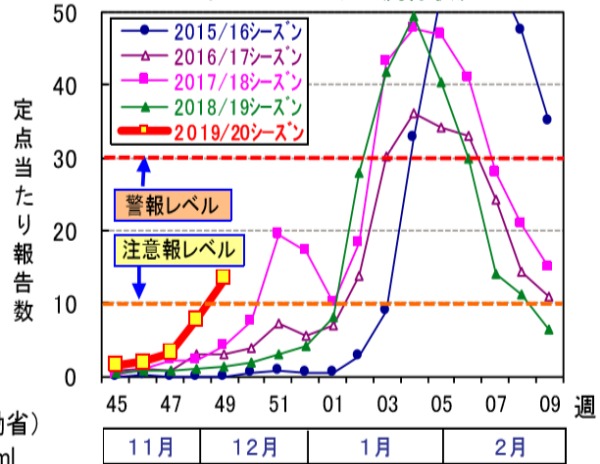
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1. インフルエンザ

定点当たり13.4人の報告があり、注意報レベル(定点当たり10.0人)を上回りました。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等も増加しており、第49週には17件報告されています。

今後、さらに流行が拡大する可能性があるため、注意が必要です。十分な休養とバランスのとれた食事を心がけ、流水・石けんによる手洗い、咳エチケットの励行、適度な湿度(50～60%)の保持、人混みへの外出は控えるなどの対策を徹底しましょう。

インフルエンザの流行状況



【参考】今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィリン	インフルエンザ	496	13.41	2.11		▲	小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.62		
	咽頭結膜熱	8	0.33	0.34				RSウイルス感染症	7	0.29	0.92		▼
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.88	3.29		□	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	感染性胃腸炎	134	5.58	10.51		□		流行性角結膜炎	4	0.50	0.70		
	水痘	7	0.29	0.56			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	4	0.17	0.46				無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	15	0.63	0.32		□		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.34		
	突発性発しん	5	0.21	0.30				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.15				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03		

急増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	□	□	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	142	女性(30歳代)・1人、女性(80歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	17	女性(30歳代)・O血清群不明
4	つつが虫病	1	8	男性(70歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	8	女性(80歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	9	女性(30歳代)、女性(90歳代)
5	百日咳	3	89	男性(10歳代)、女性(30歳代)、男性(60歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の発疹性疾患	発熱(38.0) パラ疹	10	女	2019/10/31	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載